

# 清水町 夏休みキッズ わくわく体験教室レポート

静岡県埋蔵文化財センター

平成30年7月31日(火)

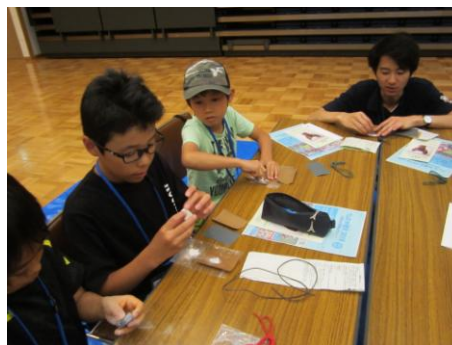
7月31日(火)、清水町の「夏休みキッズわくわく体験教室」として、3年生から6年生40名の参加者と「土器の分類」と「勾玉作り」の古代の人々の生活を体験する授業を行いました。

はじめて見る本物の縄文土器や弥生土器に驚き、さらに本物の土器片に触れながらの分類体験では、当初の硬い表情から、興味津々、目を輝かせて取り組む姿が見られました。勾玉作りでは、打って変わって会場が静まり返るほどに集中して取り組み、完成させることができました。この体験学習がこれからの生活や学習に生かされるとともに、地域を愛する心を育んでくれることを期待しています。

## 土器分類体験



縄文土器、弥生土器、須恵器(すえき)の3つの時代についてはほとんど知識がありません。しかし、実際に本物の土器を直接手にとって見ると、色や形、肌触りなどそれぞれの時代の土器の特徴や違いを見つけて分類に挑戦しました。



## 勾玉作り体験

最初は戸惑いもありましたが、取り組みはじめると次第にのめりこみ、勾玉作りに没頭する人も現れはじめました。1時間30分という短い体験時間でしたが、完成までこぎつけ、首から提げて交流センターを後にする様子も見られました。

本当の勾玉は、翡翠(ヒスイ)や瑪瑙(メノウ)、水晶といった硬い石を加工して作られています。今回はやわらかくて加工しやすい滑石(カセキ)を金属や紙のやすりを使って形を整えて作りました。縄文時代から見られる「あの不思議な形の勾玉」、そのいわれや発掘の様子についての解説を聞いた後、いよいよ勾玉作りに取り組みました。

